

2021年度 異文化交流プログラム報告書

プログラム担当：中島真紀子

3月23日(水)@桐蔭会館

【参加者】

コーディネーター1名 (ISA)

ファシリテーター1名 (ニュージーランド)

留学生6名 (ベトナム, ガーナ, ナイジェリア, パキスタン, トルコ, フィリピン)

生徒33名

教員3名

1日目の初めに行ったのは、6グループに分かれての、アイスブレイカーアクティビティ (Q&A) であった。(グループリーダーとして各グループに1人ずつ配置)初対面であるにもかかわらず、



どのグループも楽しそうに活動しており、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする生徒たちの姿勢が素晴らしかった。



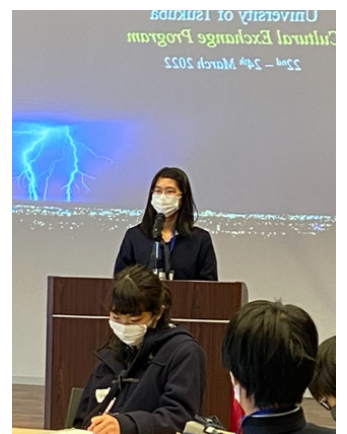
その後、事前学習で設定しておいた目標 (ゴール) を留学生とシェアし、代表者が全体の前で発表した。どのグループも達成したい目標 (ゴール) を発表するだけでなく、To achieve goal, …「ゴールを達成するために」という具体的な手立てを付け加えて伝えており、そこが一番大切な部分であると感じた。

続いて、異文化理解として講師や留学生の出身国について知るという目的で、留学生からのプレゼンテーションを聞いた。どれも魅力的であり、生徒が興味をもって聞いているのがよくわかった。また、プレゼンテーション後の質問も2~3人が自発的に行っていた。1人の質問が一回で終わらず、より深い質問へといく流れとなればさらによいと感じた。



午後は、午前中のプレゼンテーションから学んだことをグループでシェアし、主に日本との相違を話し合った。その後、何人かの生徒がファシリテーターとなって全体でシェアした。

1日目最後には、プレゼンテーションの構成やポイントについて学び、その後で実際にトピックリストから自分でトピックを選び、グループ内で発表、代表者が全員の前で発表を行った。フォローアップクエスチョンの時間もあり、かなり高度な質問も出ており充実していた。上級生である3年生だけでなく、2年生も代表発表者になっており、学年の差を感じなかった。



最後は、リフレクションの時間を設け、1日の反省と次の日に向けての抱負をシェアした。生徒たちだけの活動であったが、できるだけ英語で行うというルールを自分たちで設定し、取り組んでいた。

3月24日(木)

午前中@東京グローバルゲートウェイ

【参加者】

コーディネーター1名 (ISA)

生徒33名

教員3名

2日目は東京グローバルゲートウェイ（以下 TGG）での活動から始まった。まずはグループに分かれてのチームビルディングを行い、次に、アクティブイマージョンエリアにて「東京の魅力を紹介しよう」というテーマでプレゼンテーションの仕方を学び、3～4人で協力して東京の魅力伝えるプレゼンテーションを作成した。最後にはプレゼンテーションエリアにて全員の前でプレゼンするという機会もあった。本格的なセットの中でのプレゼンテーションであったため、生徒のモチベーションも上がっていた。



TGG での2つ目の活動は、アトラクションエリアで行った。エアポートを再現したエリアで、パスポートを片手に英語でショッピングをしたり、レストランで注文したり、さらには飛行機の搭乗体験をしたりと、実用性を兼ね揃えながらも生徒にとって非常に楽しい活動であった。一人一人にミッションカードが配られ、全員が話さざるを得ないという状況が作り出されており、綿密に練られたプログラムで素晴らしかった。単独の国際交流プログラムとして TGG 訪問の機会を設けてもよいかもしれない。



午後@東京グローバルゲートウェイ

【参加者】

コーディネーター1名 (ISA)

ファシリテーター1名 (ニュージーランド)

留学生6名 (ベトナム, ガーナ, ナイジェリア, パキスタン, トルコ, マレーシア)

生徒33名

教員3名

TGG のプログラムを終えた午後は、TGG の一部屋をお借りして昨日の異文化交流プログラムの続きを行った。ファシリテーター、留学生に TGG に来ていただき、TGG のプログラムで行ったことを留学生（グループリーダー）に報告するという活動から始まった。この活動はファシリテーターからの「私もグループリーダーたちも TGG に来るのは初めてだから、どんなことをやったのか教えて。」という問いかけから始まったのだが、話す動機づけとしてとても自然なものだと感じた。昨日からお世話になっている留学生ということもあり、緊張感も見られず、和気あいあいと話していたのが印象的であった。その後「一番印象に残ったこと “the highlight”」をグループで決め、2人が全体に向けて発表する活動を行ったのだが、全体的に昨日よりも自信をもって堂々と発表していた。

2つ目の活動は、Fun Project1 ということ、自分たちのグループリーダーと彼らの出身国について、の True and False クイズを作り、お互いに質問し合うというものであった。どのグループも工夫を凝らしたクイズで、大いに盛り上がった。

最後はファシリテーターから出題されるクイズ大会で、こちらも盛り上がり、グループ内での繋がりがより強くなったと感じた。



3月25日(金)@桐蔭会館

【参加者】

コーディネーター1名 (ISA)

ファシリテーター1名 (ニュージーランド)

留学生6名 (ベトナム, ガーナ, ナイジェリア, パキスタン, トルコ, マレーシア)

生徒33名

教員3名

3日目は「COOL JAPAN を紹介しよう」という Fun Project 2 から始まった。ファシリテーターのマーク先生から「外国人から見た COOL JAPAN」を紹介していただき、その後はグループでのブレインストーミングとなった。様々な国から来たグループリーダー視点の COOL JAPAN を知ることで、日本の新たな魅力を発見するきっかけとなった。その後、グループで相談し、「日本を世界に発信しよう」というテーマのプレゼンに向けて準備、プレゼン本番という流れとなった。プレゼンでは、演劇風に行ったり、インタビュー形式で行ったりと、さまざまな工夫を凝らして行っており、聴衆者の一人としても非常に楽しめるものだった。



3日間の最後の活動 Fun Project 3 は、事前活動から準備を重ねてきた「文化交流フェスティバルを企画しよう」というものであった。それぞれのグループの企画は以下の通りである。

- A 輪投げ・スイカ割り
- B 折り紙
- C 福笑い・コマ遊び・羽子板
- D 箸を使ってのゲーム
- E 紙芝居 (かぐや姫)
- F 浴衣について

それぞれのグループが工夫をこらした企画で、全員が全てのグループのブースを体験できるように時間配分をした。実際の体験の時間では、留学生たちと一緒に楽しんでいた。また、生徒同士でも英語で会話する様子も見られた。



3日間の振り返りの時間では、間違いを恐れず、自分の思いや学んだことを英語で一生懸命伝えようとする姿がどの生徒にも見られ、とても良い時間となった。前に出て発表した生徒を見て、周りの生徒も勇気づけられたに違いない。さらには、それぞれのグループリーダーから全員に向けてのメッセージをいただき、修了証が手渡された。また、ファシリテーターであるマーク先生からの最後の言葉でプログラムが終了となった。



【最後に】

この3日間、さまざまなバックグラウンドをもつ留学生と一緒に過ごすことで、生徒の視野は確実に広がり、「英語でコミュニケーションを図る経験を積む」という言語習得以上の学びを得たように思う。ファシリテーターのマーク先生を除き、グループリーダーの留学生の中には誰1人として英語を母国語とする学生はおらず、それでも流暢に英語を操り、なおかつ失敗を恐れない姿勢に生徒たちは勇気ももらったのではないかと感じた。また、世界には「いろいろな英語を話す人がいる」ということや、「英語を話すことで世界中の人々と繋がることできる」ということを実感したことだろう。今年度もアメリカ短期留学が実施できなかったことは非常に残念であったが、この代替プログラムを行うことで、生徒はアメリカ短期留学では学べないことも学んだ3日間となり、非常に有意義な時間を過ごした。もはや異文化交流プログラムは、アメリカ短期留学の「代替プログラム」ではなく、「独立した素晴らしいプログラム」と言ってもよいのではないかと感じた。

【生徒の感想】 ※加除修正なし

全体を通して、とても楽しかったです！たくさん英語を喋る機会があって、「異文化交流」という名前の通り他の国の文化について知ることが出来、また、興味が持てました。自国の思いがけない良いところなど、外国の方の視点から知ることが出来良かったです。

色々な国の留学生の方が、母国語でない英語でコミュニケーションを取るのを見て、英語は共通言語なんだなと改めて実感しました。英語を使い、堂々と自分のことを話すグループリーダーの方を見て、自分もそう言うふうになりたい、頑張りたいと強く思いました。失敗は悪いことじゃなくて、そこから学べばいいだけなんだよ、恥ずかしがらないでいいんだよ、とプログラムを通してずっと言い続けて下さったお陰で、私も自然とそう思えてきて、恥ずかしがらず話せるようになったし、これからの自信につながり

ました。

グループリーダーの方々はみんな自分の夢を持っていて、そのために勉強したり努力していて、その過程で、様々なものに触れることで、自分の意見を明確に持つようになったのかなと思いました。だから、私も沢山のことを経験して、その中で大小の夢を見つけ、それに向かって頑張る中で、自分の意見を持ちたいと思いました。自分の意見は、国や言語関係なく色々な人とシェアしていければと思います。その時、英語で上手に伝えられなくても、熱意があれば、ジェスチャーなどを交えてきっと伝わると思います。そのためにも、いつでも自信を持って笑顔でいることが必要ということ、このプログラムを通して学びました。

プログラムの内容とはあまり関係ありませんが、最後のマークの話が印象に残っています。自分の親切が、誰かの未来を変えることになるかもしれないと思うと、色々な人に積極的に接して、優しくしたいと思いました。

未来や将来について少し不安になっていたけど、このプログラムを通して、私はまだ若くて色々な可能性があるんで、とりあえずポジティブに考えてみようと思えました。これからこういったプログラムがあったらどんどん参加しようと思うし、自分を表現できる機会を増やしていこうと思います。ありがとうございました！！（2年女子）

[感じたこと]

最初は英語を話すのはとても苦手で、自分が外国の方々と話せるのかと思っていましたが、留学生たちはとても友好的で、拙い自らの英語でも話すことができるとてもうれしかった。

また、留学生たちとの会話はとても面白く、半分程度しか理解できていなかったがそれでも会話することができたということにとっても意義があると感じ、とても有意義な時間を過ごせたと思った。

[学んだこと]

ナチュラルに英語能力が上がったように感じた。また、プレゼンテーションの仕方も、前まではあいまいな感じだったが今回で完璧な行い方を学ぶ事が出来たと思った。

留学生との交流によってコミュニケーション能力も向上したように感じる

[今後に生かせそうなこと、生かしたいこと]

今後外国の方と話すことや海外に行く機会があれば、今回培ったコミュニケーションの仕方を生かすことができるのではないだろうかと思った。

また、今回海外の方との話し方が多少分かったと思うのでそれも生かせるのなら生かしていきたいと思う。（2年男子）

この3日間は私にとって本当に有意義で楽しいものでした。

以前から留学したいと思っていましたが、このプログラムを通して、より留学して海外でいろいろな人と話し、学びたいという気持ちが強まりました。

留学生の方々は皆さんとても優しくフレンドリーで、休み時間などもいつでも話してくださり、とても楽しかったです。TGGへは初めて訪れたのですが、本当にたくさんのリアリスティックなブースがあり、実用的なフレーズを学ぶことができました。回りきることができなかったブースもまた行ってみたいと思ったし、TGGで学んだフレーズを早く実際のレストランや飛行機で使いたいと思いました。

また、この異文化交流に参加した附属中の生徒同士の仲を深めることができたのも良かったと思います。特にコロナ禍で他学年との関わりが少なかったのも、はじめは2年生と上手く打ち解けることができていましてしたが、今はもう他のグループの人とも気軽に話すことができるようになって、とても楽しかったです。

家でもずっと英語を話していたくなり、今は家族との会話や自分が考えていることをすべて英語に翻訳してみたりして遊んでいます。最初にも書いた通り、この3日間で留学したいという気持ち、そして英語が好きだという気持ちがより強まりました。この素晴らしい機会を本当にありがとうございました！

(3年女子)

僕は今回の異文化交流プログラムを通して、感じたことが3つある。

一つ目は、日本のすごさを知れたことだ。留学生から日本にあるものを他の国のものと比べることができた。それにより、より日本の魅力について知ることができた。例えば、日本にはたくさんの自動販売機があるが、他の国にはあまりないのは日本が安全であるからということを実感できた。特にべとなくでは、お釣りが出ないことや、阪神淡路大震災の時に自動販売機が倒れていて、中身の飲み物も外に出ていたが、日本人はそれらを並べていたという話も聞いた。このように、様々な国の文化を知ることにより一層日本を好きになれた。

二つ目は、プレゼンテーションの仕方を学べたことだ。どのように文を組み立てるかだけでなくどのように発表すると自分の思いをより伝えられるのかを学ぶことができた。3日間でプレゼンテーションをする場がたくさんあったので、実践することができたので良かった。特に、アイコンタクトをみんなととることを意識できた。

三つ目は、話し続けることの難しさと重要さだ。英語においても会話が途切れてしまうのは良くないと感じた。今回のプログラムを通して、たくさん英語を話すことがあったので、会話を続けることを意識できて活動できた。しかし、思っても言えなかったり、次の話題が出てこなかったりと課題も見つかったので良かった。

最後に、このプログラムを通して僕は、日本の良さや自分自身の英語の能力を上げることができたので良かった。(3年男子)